2022.03 ver.1.1

希少がんリーフレット

国立がん研究センター
希少がんセンター

悪性リンパ腫
（あくせいりんぱしゅ）

https://www.ncc.go.jp/jp/rcc/about/multilingual.html
https://www.ncc.go.jp/jp/rcc/about/index.html

※内容を簡素に記載しております。詳しくは HP をご覧ください。

悪性リンパ腫とは

悪性リンパ腫は、年間 10 万人あたり 30 人程度の発生と報告されており、日本の成人では最も頻度の高い血液腫瘍です。一言で「悪性リンパ腫」と言っても様々な疾患単位が含まれており、頻度の高いタイプから非常にまれなタイプまで多岐にわたります。悪性リンパ腫は、血液中の「リンパ球」ががん化した疾患であり、主にリンパ節、脾臓および扁桃腺などのリンパ組織に発生しますが、胃、腸管、甲状腺、肺、肝臓、皮膚、骨髄および脳など、リンパ組織以外の臓器にも発生します。発生した部位により症状および診断の契機が異なります。正確な診断に基づき適切な治療を行うことで、少なくとも一部の病型は根治できる可能性があります。

悪性リンパ腫の診断と分類

悪性リンパ腫の確定診断は、外科切除や生検により採取された腫瘍の一部を用いた病理組織診断に基づきます。臨床的に悪性リンパ腫が強く疑われる状況でも、一回の生検では確定診断に至らず、再度生検が必要な場合があります。悪性リンパ腫は、病理組織学的に 50 種類以上に分類されますが、ホジキンリンパ腫と非ホジキンリンパ腫に大別されます。非ホジキンリンパ腫は、B 細胞性と T/NK 細胞性の二つに分類され、更に細かい病理組織型に分けられます。非ホジキンリンパ腫においては、病理組織分類に加えて、病状の進行速度によって三つの悪性度に分類されます。 正確な病理組織診断と悪性度分類が、適切な治療方針を決定する上で重要です。

治療について

悪性リンパ腫の治療は、化学療法と放射線治療が中心です。患者さんの全身状態、病理組織診断、悪性度および臨床病期（ステージ）に基づいて治療方針を決定します。

悪性リンパ腫の治療後の問題点

悪性リンパ腫治療後の問題点として、二次がん（白血病など別の血液腫瘍を含む）、不妊、心臓や肺を含む臓器障害、糖尿病などの生活習慣病、骨粗鬆症などの晩期合併症が知られています。治療終了後も医師の勧める期間定期的な受診を受けることと、職場や地域の検診等を積極的に受診することをおすすめします。

希少がんセンター
https://www.ncc.go.jp/jp/rcc/index.html

希少がんセンター Facebook

希少がんに関する動画一覧
希少がんに関する動画一覧